

大式 誠実と敬虔を望む

千卒 谷川学長告辞

昭和四十二年卒業生、大式卒業生、同窓会主催の「同窓会」に出席した。公・伊佐治、石井、渡辺、板谷、一、多岐、伊藤、遠藤、大島、は次の通りである。

本年度卒業生は、千百九十九名、うち医学部卒業生は留學生九名を含め九十四名であった。

卒業生代表として、谷川学長より告辞があり、卒業生の前途を激励し、「五十枚の国書にあらず一冊を贈る、これ則ち 国書なり」という言葉を、はなむけの言葉とした。また来賓祝辞に対し、卒業生代表として、医学部の青木三千代が、答辞を述べた。

このあと医学部卒業生は、同日午後一時より、講堂前広場において、卒業生代表として、谷川学長より告辞があり、卒業生の前途を激励し、「五十枚の国書にあらず一冊を贈る、これ則ち 国書なり」という言葉を、はなむけの言葉とした。また来賓祝辞に対し、卒業生代表として、医学部の青木三千代が、答辞を述べた。



卒業証書を受取る医学部代表

三月三、四日に行われた四十一年度卒業生代表の発表者、三月二十一日午後一時より、医学部講堂に発表された。

ベビーブームを反映してか、倍率も十三・一倍と高いものであったが、発表と同時に多数の受験者が、おしよけ、希望者もこの機会を見られた。なお合格者の現役と浪人の比率は三対七であった。

合格者は左記の通りである。

開成 安東直夫 大塚裕 遠藤 安賀一 学芸大附属 高杉敏彦

野勝彦・田中弘一・谷口克・田村 保高英・一牧・牧野英・松田 阿部加代子 山形美南 池原千衣 三・徳永・内藤・中川・和子・松村公人・宮内倉・宮内 日比谷高 山城敏行 君塚五 仲川利男・中島寛己・中村謙介 本志昭・百瀬喜幸・森田清・守 郎 小川富雄 九段高 高田博文 鍋島和夫・西田敏之・志賀 秀秀・門馬公経・矢崎浩・安田 紀彰・野崎忠信・能勢忠男・野村 耕作・山田益子・吉野正正・渡辺 庸一・早川国彦・林龍哉・林道夫 昇・渡辺清典・比嘉英彦・Cray en Paul Lant・Ng Sian・姚 菊・平賀一陽・日笠山一郎・深沢 健奇・陳維雄・劉浩志・廖耀南 京子・福田武幸・藤田慶・藤本章・楊朝明・Wong Fook Poh 服部孝幸・星野豊・本多陸人

相変らずの狭き門

◆医進入口合格者発表◆

本年度は二十七名

乙種学位授与発表

四十年年度乙種学位授与者が発表された。本年度は二十七名であり、その氏名、論文内容は左記の通り。

▽第一内科・河野順「H波の臨床応用上の基本的問題に関する研究」

▽小橋規「胆嚢炎の臨床的研究」

▽内山静剛「甲状腺機能亢進症の内科的治療における下位甲状腺の臨床的研究」

▽有馬道雄「原発性及び転移性肝臓の臨床知見」

▽羽島美「糖尿病患者の統計的観察および予後に関する臨床的研究」

▽松田英雄「慢性肝炎の前期と後期における臨床病理学的研究」

▽会川相訓「急性ウイルス性肝炎の臨床的観察」

▽小高松「労働条件と結核の経過に関する研究」

▽重田英夫「正常脾機能に関する実験的ならびに臨床的研究」

▽森博士「慢性腎臓病における腎臓の力と処理機能に関する臨床的ならびに実験的研究」

▽佐藤直義「胆道系疾患治療に関する臨床的ならびに実験的研究」

▽第一外科・河野順「胆嚢炎の臨床的研究」

▽小橋規「胆嚢炎の臨床的研究」

▽内山静剛「甲状腺機能亢進症の内科的治療における下位甲状腺の臨床的研究」

▽有馬道雄「原発性及び転移性肝臓の臨床知見」

▽羽島美「糖尿病患者の統計的観察および予後に関する臨床的研究」

▽松田英雄「慢性肝炎の前期と後期における臨床病理学的研究」

▽会川相訓「急性ウイルス性肝炎の臨床的観察」

▽小高松「労働条件と結核の経過に関する研究」

▽重田英夫「正常脾機能に関する実験的ならびに臨床的研究」

▽森博士「慢性腎臓病における腎臓の力と処理機能に関する臨床的ならびに実験的研究」

▽佐藤直義「胆道系疾患治療に関する臨床的ならびに実験的研究」

④ 柔道部



昭和三十一年、柔道部の一員として、柔道部が誕生。当時四・五名の部員は旧医専講堂に敷いて練習に励み、学内クラス対抗試合を主催して同好の士増加に努めていた。その頃の先輩である国立療養所の岡田勝助先生は現在、OB会長としてお世話をお願いしている。武道部長は病理学石橋教授であった。昭和五十年、医専時代の建物を寄集めて武道館が完成。現在柔剣道場である建物は、大学会館と並んで、玄鼻の遺跡となつてゐる。この武道館は分けて、柔剣、弓道が独立。柔道部は柔剣との合同練習を盛んに行ない、幾多の名選手を生んだが、間もなく第三次大戦となり戦時体制で、柔道部

東日本最強のチーム

堂々と輝く28連勝

興千葉の名が注目されるようになった。昭和三十一年、当時学生寮だった旧武蔵館が柔剣道部に返還されようとして柔道部は完全な形となったのである。その頃柔道部は千葉県代表として団体に出場、東日本でも最強のポイントゲッターとして他校の選手を驚かすのだった。

昭和三十一年、金沢との定期戦が始まる。西日本連盟の主力を持つ金沢は現在までわが校の良きライバルである。昭和三十一年東日本、決勝トーナメント出場、同年関東一位、昭和四十年東日本、二位、同年関東、初優勝

先鋒、現役が一体となった努力が実を結び、柔道部は毎年力を発揮してきた。そして現在、諸先輩の愛護の下、柔道部は、東日本最強のチームにまで成長した。昭和四十年第八回東日本決勝戦で岩手戦に惜敗して以後、敗戦を知らず、一年半にわたって二十八連勝を記録している。特に昨年は先鋒西日本一位の金沢を定期戦にて破り、東日本大会では無失点の完全優勝、千葉主管の関東では四十年に達する連続優勝するなど全タイトルを独占、優勝旗、優勝盃は悉く千葉に集まった。

現在師範は警察学校の山口七段と厚生課の斎藤五段であり、部員は千名、有段者が大部分を占めている。毎週一回の練習、他週一回程度の自主練習、年五回の合宿はかなり激しい。全季との結びつきは固く、合宿はほとんど合同で行なわれ試合には常に四・五名のレギュラーを送って好成绩の原動力となっている。年間行事は四月対金沢定期戦、六月と十月四大学対抗



写真上 第九回東日本体育大会での優勝を記念して
写真下 昭和三十一年のコンパにて

戦七、長期にわたる空白時代は、医大時代の先輩とのつながりを困難なものとしてしまった。戦後連絡を密にして当時の諸先輩の御助言を仰ぎたいと思ひます。柔道部生活を送られた先輩は是非御一筆下さい。

健保新採用!! 錠、注、デポー

プリモラン

— 新強力蛋白同化ホルモン —

SCHERING AG BERLIN

Schering 日独薬品株式会社
千葉営業所(22) 5615

動脈硬化治療剤・抗キニン剤

<適応症>

1. 次の疾患に伴う狭心症症状
冠動脈硬化症、狭心症、心筋梗塞、冠不全
2. リウマチ熱、慢性関節リウマチ
3. 脳血栓
4. 次の疾患の出血症状の改善
血管性紫斑病、アレルギー性紫斑病、アナフィラキシー様紫斑病、リウマチ性紫斑病、単純性紫斑病、血小板減少性紫斑病、急性白血病

アンヂニン

2.6-ピリジンジメタノール ビス(N-メチルカルバメート)

<包装> アンヂニン錠 1錠 250mg 20錠・100錠・500錠

健保適用
薬価基準1錠(250mg) ¥52.00

製造発売元
万有製薬株式会社



卒業者は僅か六名

東大医学部スト

昨年十二月の東京医歯大ストライキと並行して、東大においても青医連支部四十二年度部隊、四十二年度部隊（現「イ生」）は全研修医三百名の受入を要求して大学側と団交に入った。十一月三十日切替院長代理との同意によって人数受け入れはほぼ認められ、自主力キニウム等については病院長との話し合いにより決めるという内容の申し合せ書を取りつけた。しかしその後、病院側は申し合せを破棄し、吉利、中尾、上田内科について、研修医側の受け入れ要求数である二十四、二十三、二十二（二年目、二年目合計）を拒否し、各々、十五、十五、十六人に制限してきた。

十一月十二日、青医連支部は自主的研修カリニウムを主任会議（臨床系教授会）に提出したが、結論は出ず、これについて青医連学生側は来年度の研修医数は従来のイ生と一局一年生の数の合計を上まわるものではない、三内科が人数制限を行なうのは根拠なしとし、一月二十日を期限に再び人数受け入れを要請したが、主任会議の方針は変わらず、人数調整についてはベッドフリー（ベッドにつかない期間をみて、その間を心電図、胃の透視等の実習にあてる）の期間設置によって受け入れ人数を調整することで同意にこぎつけた。しかしながら、その期間の研修内容について、青医連側は各科主任と研修希望者との話し合いによる決定を要望したのに対し、主任会議は各科主任が決定するという意向を提示したため再び紛糾した。

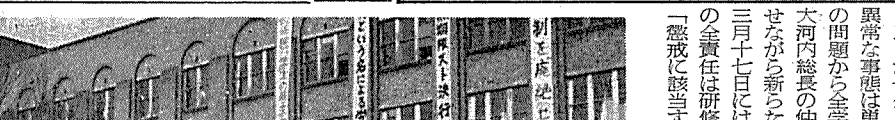
このような状況のもとで、M四卒業試験が二十三、二十四日の内科から始まる予定であったが、学側は研修生の採否、人数、カリキ四はこれをボイコットし、M三以下は授業放棄を行なうて、青医連の二月初めよりの研修放棄に続いた。人数受け入れの期限切れとなつた二月二十五日、学生大会が開かれ、百八十一対一の絶対多数で無期限ストライキが可決された。

スト突入後、青医連、学生側から申し合せ書が出された。「二内科科においてベッドを受け持ち得る人数には制限がある。もしもそれ以上の者がその内科での研修を希望した場合、ベッド受け持ち以外の時期での研修については各内科主任と研修希望者との話し合いの上で決定する。ただし、他科他病院での研修は原則として行なわぬものとする。この場合各科の受け入れ人数は吉利内科一千四名、中尾内科二十三名、上田内科二十二名となる。なお処分者は出さないものとする。」

これに対して三内科側はこの申し合せも拒否し「主任会議の主体性を認めない限り、話し合いには応じられない」また、十日の段階では「研修に関しては、話し合いの後には各内科主任が決定する」という態度を明らかにして、病院側は巻き返しに出た。

ストライキの長期化に伴い、卒業試験は全面的に実施されない状況となったため、学部側は再試験に関する通告を出して、学生側に二月十八日に期限を切つて、再申請するよう呼びかけたが、学生側はこれを内部切り崩しと見て「卒業を断念、各世代に渡つて留年」の決意を固めた。この際の再申請者は六名であった。

学生側と教授会の対立が決定的となった二月末に至り、主任会議側は研修生の採否、人数、カリキ



「懲戒に該当するが、慈悲により」

の維持に努めた。

ストが二月以上も及び、という異常な事態は単に東大医学部のみの問題から全学的な規模に拡大し、大河内総長の仲介などの局面を見せながら新たな段階に入った。三月十七日には、大学側は「事態の全責任は研修生、学生にある」と

ニラム、処分などについて病院長が決定権をもつという、病院内規の内容が明るみに出され、学生側はこの内規は「医局人事管理の法制化である」と断固反対の態度を固め、数回に渡る団交は何ら解決へのきざしをもみせず膠着状態に陥った。この間学生側は連日クラス会、勉強会を持ち、インターン問題、医局、医療状況について対論を深め、医局、他大学から講師を招いて講演会、映画会等を開催し、スト体制を点検しつつ、結団の維持に努めた。

ストが二月以上も及び、という異常な事態は単に東大医学部のみの問題から全学的な規模に拡大し、大河内総長の仲介などの局面を見せながら新たな段階に入った。三月十七日には、大学側は「事態の全責任は研修生、学生にある」と



東大病院前に出現した「壁新聞」

認定は明確に医局員に波及し、東大に降つたにおける最終的敗戦に達したことが確認された。

その後の経過は不明であるが、卒業式を明日に控えて、二十一日、大学側は大幅に学生側の要求を入れ、三百人の受け入れ能力キレム問題は解決した

間報告

を明確化

論処理を要する現行インタン制部やいわゆる無給医局員問題についても、当然新しい教育研修制度体系のなかに位置づけられて解されるべき筋台のものであるが、前書き、

い闘争を進めようとして最も基本的な条件であり、闘争の成否を右する基盤である世代間の連帯これは単に運動方針の断承とい静的な体形でなく、前世代の理的欠陥、戦術的錯誤を克服揚棄る能動的な意欲を組織的に向上せる集団形成とする必要がある。医学部の世代交代は三分の一ずつであって、一般大学が二分の一あるのに比較するとかなり有利あることが指摘されるが、六年に渡って常に闘争に対して高度認識を持続することは難かしくとかく日常生活に流され勝ちである。

無給医改善運動においても「葉の状態はそう悪くないんだ」教育を受けている身で報酬をななてオコガマシイ」というようなめて現状肯定ないしは、理性的(?)な対応は改善運動に何ら貢獻しない、専ら指導者の足を引張

医卒懇中間報告

完
廃を明
確化

度、京都府学連を中核として昨春秋に
いい、結成された「三派連 会学連」
の（三派と略す）に属している。昨
年来早大、中央、明大で起った学
と園紛争はこの「三派」が主派的役
割をはたし、局地的ではあるが安
本利己的な態度と断定せざるを得な
い。

これは学部学生にもあてはまる
ことで、「良く解からなう」「過
う論激で追いつけない」といった自
からの歴史的使命を自覚しない者
が多すぎるのではないか、現実を
直視する勇氣を失ひ、若くして常
識的な意見を吐くだけの「評論
家」に堕し、間接的にはイ闘争を
否定する阻害物としてか作用しなく
ある。

世代の連携について、具体的に
千は医進から学一進学にとまな、
「意識的未分化の状態から、専門課
程の勉学に追われる受動的的存在
に逆戻りし、イ問題に対する関心
（）を払ふ余裕がない。これは学生を
厭責めざるよりも、自治会、インタ
ー委員会的情宣活動の不足を、不

イ闘争とその周辺

変革への意識形成を

同じく起つており、その闘争形態には類似点が多い。同じ学生運動として両者の間には理論的基盤、戦術方針において相互に関連しあつては否定できないが、イ

足というより皆無の現状を打開しなればならない。同様なことが学三から学三へ進歩する場合にも見られる。この時期では比較的時間に余裕のある学二の段階で進んだ議論が、臨床科目の学習が始まる学三に至り、カリキュラム等に発展的に反映されない。イ問題が二面的に捉えられて、実際に接点を見いだし得ない。このように、

凶迷打破を

関心の高まりが周期的であると井に理論と実践を併立させる基盤がないわけである。また中央集会への参加要請がある場合、それに向けて討論を展開しても、情報、資料の不明確に伴う認識不足から一定の結論が得られず、未遂に終へてしまふ。そこで得られた何らから成果をも維持することなく、消滅させ、基点に戻つてしまふ。

イ闘争の低迷打破を

東と、外からの政府医療政策によってガンジガラムにされた医師集団にとって、麥革への意識はどのような形態を取つたか、現状への不満を上層へ訴えるという素朴な行為でさえ、まず下級医師の「無氣力」「ウスラ笑ひ」になすりつけあきらめることはない。われわれがはつきり自覚すべきことは、インターン闘争は、い制設置の頃からその制度的不備を指摘されてきており、何らの改善意欲を示さない政府厚生省をわれわれが作りだす情況のもとに厳しく追求し、改善への方策をとらせるべく有効な戦術を組むべきである。その際、現在まで闘争を指導してきた医学連における千葉大の位置を再び明確にし、横断組織での一つの強力な拠点として千葉大独自の力で新たな局面を切り開けることが、よに学内の体制を固めることが要求される。低迷する現状から脱却するために学四の熱意ある取り組みが期待される。

り、單なる脱止運動でないことは明らかである。特に医学部ストライキにおける学生、研修医の驚くべき団結力は長期に渡る闘争のなかで少しも脱路者を出さない、またスト切崩しがスト抑圧として働かないことで証明される。この団結力こそは「現在の医学教育、医療制度の基では日本の医学は没落する」という医学生共有の職業的危機感から否応なく形成されたものである。

一方、近代的アカデミズムの象徴とされた医学界は戦後の外部社会の近代化を、徒弟制に基く學術の専門化で切り抜けるかにみえたが、社会保障制度確立に名を借りた厚生省の医療政策により込まれ無給医に象徴される低医療費政策の一担を負わされる破目になった。大学医局は昔日の權威の座を降り、ジツツ病院の確保が医科大学の力の程度を示す、という医師給供源の役割を發揮するようになる。このような大病院の社会的地位の変化にもかかわらず、大学医局の改革は進まず、医師は十分なる医療教育を得るためには大病院に残る以外になく、他万市中で医療労働を切り売って生活保障とする存在となった。内からの医局徒弟制による学問的、身分的拘

新発売!

**B12
B6
B1**

**ついに わが国でも完成した
V.B1+V.B6+V.B12高単位合剤**

ヨーロッパで、神経機能回復に賞用されているV.B1・B6・B12の合剤がわが国にも登場しました。すでに定評あるビオタミンをはじめ、V.B6・B12を高単位に配合した強力な製剤です。神経系疾患、リウマチ性疾患、無力症、各種貧血の治療に、ユニークな効果をご活用ください。

新発売!

三共株式会社

ついに わが国でも完成した
V.B1+V.B6+V.B12高単位合剤

ヨーロッパで、神経機能回復に賞用されているV・B1・B6・B12の合剤がわが国にも登場しました。すでに定評あるビオタミンをはじめ、V・B6・B12を高単位に配合した強力な製剤です。神経系疾患、リウマチ性疾患、無力症、各種貧血の治療に、ユニークな効果をご活用ください。

●神経機能賦活剤

ビタメジン

(1カプセル中: ビオタミン25mg/V・B625mg/V・B1250μg)
 包装 500カプセル 1,000カプセル

10
 せ
 ぐ
 31

春…

組織を強くする
好機です……

40才をすぎて衰えを感じた方…パロチンの補給作戦をはじめてください。

パロチンは骨・関節・筋肉・血管・目・歯・胃・感染に対抗する組織など体の重要組織を強くする。唾液腺ホルモンです。

老化に対抗する――

帝国臓器
東京・丸の内

パロチン錠

一錠中 唾液腺ホルモン5mg含有 へ120錠

サッカー部台湾へ
千葉大初の海外遠征

千葉大学蹴球部は台湾大学医学
院の招待により、四月一日台湾へ
向け一週間の遠征に出発した。

蹴球部は昨年五月対広島医学
部との定期戦の時同部の先輩であ
る安達鶴一郎先生（昭十一年卒）
との話し合いで、台湾遠征の事が
話題に上り、その後部員が計画を
進め、戸沢助教（産婦人科）、
岩崎先生（第二病理）昭三十五年
卒）の努力により、今年二月始め
になって台湾大学医学院から招待
状が送られ本決りとなった。台湾
大学医学院には本学の先輩葉澤病
理学教授（昭九九年卒）がおられ、
同教授は千葉大在学中蹴球部員
として、現部長御園生教授と共に
活躍された方である。

遠征する選手団は御園生部長を
団長とし、以下監督に角田船橋中
央病院院長（昭十三年卒）・コ
チは林先生（一内科）昭三十九年
卒ら四名、選手二十名・マネジ
ャー一名、また故吉岡越治先生
（昭十四年卒）の夫人八千代さん
も選手の世話役として一行に加わ
り、総費二十八名である。

同窓会館にての壮行会の様子

第九回東日本体育大会

た。四月一日選ばれた組のプレイヤーコート・グレーのスポン・えんじのネクタイと真新しいユニホームで東京駅前に立ち、多数の同部の先輩や学友に見送られ元気に台湾へ向け出発した。

蹴球部の台湾選征は千葉大学最初の運動部海外選征で、その成功が期待される。同部は「日本の中

の千葉大にあまじいだけではない、さらに世界の千葉大として進む」との念願が、一歩実現したわけである。台湾の学生蹴球の実力は未知数であるが、つねに力を尽し対戦し当初の目的である「日華友好増進と医学知識交換」を行ない、今後今回を機会に台湾大学と定期的に持つ計画であると、選手

選手団の名簿は次の通りである。団長御園生雄三（産婦人科教授）監督角田富雄（船橋中央病院院長）コーチ兼医師林 学（一内科）コーチ錦島和夫（インターン）若菜征夫（千葉大OB）栗屋征五（工学部大学院）主将北原宏（医学部四年）

は張つていた。

第九回東日本医科学学生総合体育大会を逃した。

第九回東日本医科学学生総合体育大会冬期大会は、新潟大学医学部の主管のもと、スケート部門は一月十一・十二日に富士五湖で、またスキー部門は三月十二日から四日間わたって新潟県赤倉で行なわれた。

この結果、本学は冬期大会では参加点の二点のみにとどまったが夏期大会での奮闘が効を奏して総合点で、二位日医大を六ポイントばかり、二年ぶり四度目の総合優勝を成し遂げた。

なお夏期部門における本学の入賞種目は、柔道、軟式蹴球女子（以上優勝）、蹴球、硬式蹴球女子（以上二位）、バドミントン女子卓球男子、同女子（以上三位）であった。

第十回夏期部門は横浜市立大学医学部が主管校となり七月下旬に横浜市を中心に行なわれる。

あった。

カリキュラム

歯口科

四十二年度カリキュラムの内容が決定されたが、これによると大きな変化は、学三・学四の臨床講義が合同講義形式（臨床＋基礎）を多く取る方針となり、また医事法制が学三から学四に移った。新たに学四に歯口科がポリクリに入った。昨年度学二にて問題にな

四度目の総合優勝

選手
諏訪敏一（医学部四年）
篠原義實（医学部三年）
坂本建彦（医学部三年）
高地刀志行（医学部三年）
山田秀雄（医学部三年）
吉野隆巳（医学部三年）
榎本正満（医学部二年）
篠原信賢（医学部二年）
丸山俊秀（医学部二年）
中村欽哉（医学部一年）
野崎修（教育四年）
添田隆義（工学四年）
荒木堅義（工学四年）
平川欽哉（文理四年）
平沢重樹（教育三年）
飯塚栄一（工学三年）
田口修（教育三年）
平林久義（工学三年）
選手世話役吉岡八千代（吉岡越治の夫人）
マネージャー 飯田秀治（医学四年）

シム変更

ホリクリ始まる

った留年制度は、四十一年度医学部学生便覧、千葉大学 医学部規程、第四案、学生は一年次より三年次に進級する際次の科目の内三科目以上不合格の科目ある場合留年、二科目の場合に教授会の審議（advisory）による。解剖学、生理学、生化学、薬理学、細菌学、理学、寄生生物学、法医学。

カリキュラム変更

四十二年度

医学部入学者

高 久保不丈夫 佐原高 佃田徹 野和哉 松岡高 藤井ひろみ (實
平 (開成高) 結束溫 (土浦一高) 學大附屬高 藤井泰子 (湘南高
小林弘忠 (阿國高) 小林玲子 (都 船津惠一 (阿國高) 保坂瑛一 (小石川高) 堀田高
立駒場高 斎藤裕子 (フェリス女 石川高) 保阪喜昭 (小石川高) 堀田高
學院 斎藤登喜男 (日大二高) 佐 江武 (小石山高) 久田俊和 飯田
伯久 枝 (隈谷女子高) 桜井幸弘 高 松井京子 (伊勢崎女子高) 松
(駒場東邦高) 佐藤章 (小山台 清平 (麻布高) 松崎理 (阿國高)
高) 佐藤陽子 (戸山高) 里川まき 三浦利重 (上野高) 三科孝夫 (睦
子 (白百合學園高) 芝入正雄 (阿 星高) 宮城三津夫 (聖光學院) 宮
國高) 杉本和夫 長岡高 鈴木直 本和子 (阿國高) 村山広道 (阿國
人 (成蹊高) 高島和子 (土佐高) 高 柳樹雅彦 (狹協高) 矢端幸夫 (睦
高瀬学 (千葉高) 高樺 誠 (千葉 高) (小石川高) 山口康一郎 (別府鶴
高) 多賀谷茂 (前橋高) 竹内英世 見ヶ丘高) 山田耕三 (芝高) 柳樹
(太田高) 竹森利忠 (東教大附屬 光子 (武蔵丘高) 山室美砂子 (小
高) 田畑陽一郎 (墨田川高) 館崎 田原高) 山本勇 (湘南高) 吉田馨
慎一郎 (開成高) 柘植葵 (都立西 宣 (阿國高) 吉田研 (戸山高) 若
高) 戸出健彦 (横須賀高) 中川武 林康之 (城南高) 渡部恒夫 (都立
夫 (立川高) 中島祥夫 (阿國高) 西高 津山和子 (首里高) 喜屋敷
中村欽哉 (千葉高) 中村和郎 (豊 照子 (石川高) 仲山勲 (那覇高)
多摩高) 仁藤章夫 (開成高) 丹羽 崋嶋仁 (中國) 黃仲有 (新竹師
有一 (隈谷高) 長谷川吉則 (東教 範) 大川昌權 (鶴崎高) 文雄 雄
大附屬駒場高) 長谷川弘弘 (千葉 (上野高) 楊曉慧 (松陵學園高)
高) 浜崎智仁 (小山台高) 浜野頼 門井隆司 (戸山)
隆 (桐朋高) 林謙治 (狹協高) 平

大学院入學者

昭和四十二年度大学院研究科
 学者及び卒業者は左記の様に発表
 された。入学者五十四名は国試
 イコットなどあり入学科は決定
 ておらず、いすれ発表されるこ
 になった。

大学院入学者

齊藤安房	安井璋安
藤堂三男	山口 鯉
内藤敬一	中村宣生
守田博之	島田純一
竹島 徹	落合武徳
御園生正記	瀬川五雄
金元良人	飯田龍一
鈴木 豊	小川聖二郎
齊藤俊弘	塚本嘉一
島田哲男	丸山雅一
鈴木治男	樺田康一郎
陳瑞 和	武井幸達
橘昌 孝	藤田道夫

大学院卒業者

平野彰三	田中文隆
半沢 儼	鎗田 努
里村洋一	福田 淳
塩沢 博	岸本圭司
小林伸行	那須 武
石田逸郎	小林英夫
伊藤耕三	聖師寺隆
大島仁王	白浜龍興
渡辺一男	大塚明彦
神谷定茂	溝口 勝
菊池義公	渡辺 寛
飯島一彦	天野勝弘
白石真人	今井三範
松葉幹夫	諸岡啓一

大学院卒業者

鷗田晃一（第一解剖学）、榎本之（生化学）、守山洋一（生化学） 勝田貞夫（薬理学）、伯野中彦（理学） 伊藤文雄（第二病理学） 矢倉正胤（第一病理学）、新井（公衆衛生学）、土橋正邦（公衆衛生学） 中島敏（法医学） 大野
--

學内短評

則(第一内科学)、岡崎伸生(第一内科学)、塚田悦男(第一内科学)、渡辺実(第一内科学)、草刈隆(第一内科学)、中村嘉孝(第二内科学)、松山大秀(第二内科学)、土井修(放射線医学)、油井信春(放射線医学)、小野 幸雄(神経精神医学)、島崎吉吉(神経精神医学)、田島誠(神経精神医学)、米沢昭夫(神経精神医学)、杉岡昌明(小兒科学)、藤森宗徳(小兒科学)、大原啓介(第一外科学)、高井満(第一外科学)、本多満(第一外科学)、綿引義博(第一外科学)、高梨健治(第一外科学)、西沢直(第二外科学)、日浦利明(第二外科学)、山根友二郎(整形外科学)、奥山隆保(整形外科学)、布施吉弘(整形外科学)、小林総介(産婦人科学)、須藤弘毅(産婦人科学)、北沢克明(眼科学)、森豊(耳鼻咽喉科学)、瀨川 葵(泌尿器科学)、外間 孝雄(泌尿器科学)

今年度は実施されなかった。

学内短評

校内の桜も咲いてすっかり春になった。ほんの一カ月前の大雪、えりを立てて歩いたことなど想像もつかぬのどかな校内である。月日の立つのは早いものである。▼四月からは学部に移らたに百余名の新学部生が入って来る。毎年の行事であるが、彼等の姿は新鮮味を校内にもたらしてくれる▼今一つ学校近くに千葉城が完成し、校内の風景もまた変った。青空には白壁の天守閣はコンクリート製とはいえない良ものである▼校内の春はのんびりしているが、外ではインターン問題がいまや激化している。五月にはインターン委員の選出もあることだろうが、我々には自らの問題であることを自覚する必要があるのではないだろうか。

内科書

神中 天児民和正一著 訂改	岩田信勝 島田實猪原改訂	友田正信 三宅博編 天児民和共	大阪大学教授 立入弘著	大阪大学教授 蒲生逸夫著	内科書	東大名譽教授 戸田忠雄編	安倍三史 高桑榮松編	新衛生公衆衛生学	戸田新細菌学	藥理学入門	東京医大教授 原三郎著
神中整形外科学	木外科総論	放射線医学入門	小兒科	小兒科	外科総論	戸田新細菌学	新衛生公衆衛生学	戸田新細菌学	藥理学入門	藥理学入門	
16版 価一、一四八圓	29版 B五六五〇圓 価三二〇〇圓	3版 B五四〇圓 価三二〇〇圓	4版 B五六八四圓 価四七〇〇圓	初版 B五六〇〇圓 価四〇〇〇圓	上巻 価五五〇〇圓 中巻 価五五〇〇圓 下巻 価六〇〇〇圓	8版 B五四七〇圓 価二八〇〇圓	改9 A五六六圓 価二四〇〇圓	19版 B五七五四圓 価四八〇〇圓	8版 B五四七〇圓 価二八〇〇圓	8版 B五四七〇圓 価二八〇〇圓	

新學期に贈る
南山堂の優秀参考書

本邦唯一の医学百科(増刷11版)

南山堂
医学大辞典

前東大教授 加藤勝治編	醫學英和大辭典	豪華 縮刷 價三八〇〇円
實川哲夫編 浦久保改訂	標準 醫學語辭典	豪華 縮刷 價四五〇〇円

日本人体解剖学

日本医大教授 金子丑之助著

組
織

和川
田弘
正男
一
編

生理學講義

下卷 上卷
価三 価五
三〇〇 三〇〇
円 円

東北大学長
本川弘一著

最新生理

大阪大学教授
山村雄一著

新 医 化 学

改6 B5六九〇頁
価四三〇〇円

東北大学教授
赤崎兼義 著

病理学総論

東北大学教授
赤崎兼義編

病理学各論

ⅡⅠ
価三〇〇円
価三五〇〇円

東京医大教授
原三郎著

薬理学入

九大名誉教授
戸田忠雄編

戸田新細菌学

19版

B5七五四頁
価四八〇〇円

高安 桑倍 榮三 松史 編
新衛生公衆衛生

衆大名譽教授 沖中重雄 改訂 吳建・坂本恒雄 著

內科書

大阪大学教授
蒲生逸夫著

小児科学

初版

B5 六〇〇頁
価四〇〇〇円

大阪大学教授
立入弘著

放射線医学入門

友田正信
三宅博
天民和
編共

外科
科学
総論

3版

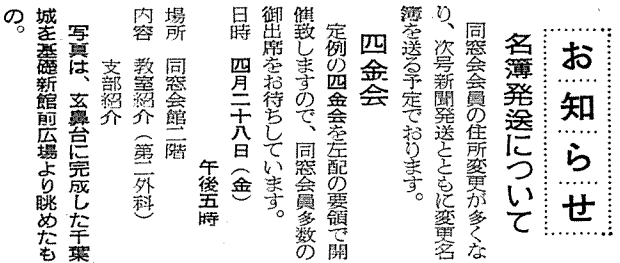
価三〇〇円

B5五四頁

島田信勝訂
岩倉者放
木
外科
科
総

神中正一訂著
申中整形外科
版一、二四八頁

河野左衛門改



郊外の山の中となれば手く足がない。仕方なく欠席の旨連絡したところ、歩いて来いとのこと。町中はいざ知らず、十日前前中には道路の積雪は約三センチメートル、ざっと二里半の道程を歩くのかと思わず戸外をながめたが、帰りはどうなるだろうか、心細くなり、やはり欠席する旨を連絡したのであった。

在業幹事の川上仁君にクラス会の首尾を聞いたところ、出席者は例年より少なかったという。やはり積雪がたたって、千葉、神奈川方面からの出席は、きわめて少数であった由。特に議題はなく、い

つの間に時間が経ってしまったとか、おそろくチャンコ鍋をつつくのに忙しかつたせいであらう。

二月二十日は、陽チフス禍の松田君の命日、川上仁君、関隆君は同道で習志野の松田氏宅を訪れ、

赤松 両名譽教授をお
加賀谷 白鬚会

白鬚会は去る十一月二十六日品川プリンスホテルに於て、赤松、加賀谷の両名譽教授をお迎えして臨時總會を開いた。

(一) 姪友森本一善氏の『硫黄島玉碎に折る』出版祝賀の会
(二) 姪友鈴木重一君のタンカー乗船の壮行の会
(三) 姪友渡辺六郎氏の欧州漫遊報告の会。

以上を今日の会の主目的とする。両名譽教授は現職にあられた當時と少しのお姿りもなく、極めてお元氣にて、若々しく、数々の思い出話に一夕の歌を書きされ、會員も兩教授を囲んで、大いにメートルをあげた。朝岡会長は、落馬事故の爲、膝の関節にギブスをはめての出席にて、畳の上に椅子を持出した。当日の出席者をするす。

朝岡唯夫、森本一善、小林英佐、荒木智夫、妹尾桂作、鈴木重一、橋島夫、市川豊一、渡辺六郎、新藤清司、古賀富夫、朝岡至、鈴木敏雄、大関仲三、守屋秀繁、市川武、淺野秀芳、ゲスト、赤松名譽教授、加賀谷名譽教授、五十嵐健夫

白鬚会を開く

[illegible]

名実ともに本部に

クラスを代表して焼香されたが、い先頃のこの様に思われたが、あいにく松田夫人は不在であった。早、一周忌を迎えたのであった。月日のたつのは早いもので、新聞クラスの全員が、心から二人の遺児の健やかな成長と、松田兄の冥

学内支部近く結成

名実ともに

昨年度におけるものは、同窓会の活動状況は例年になく目ざましいものがあつた。各支部の活発な動きがみられ、千葉県支部をはじめ、県内でも各主要都市の支部結成がめだつてきた。支部会開催の

谷川学長山形大訪問時に

榎本が持っていることをお伝えしたい。

木村康（昭二十四卒）記

科学、白壁肇夫（第一内科）、木村康（生医）、鍋谷欣一（第一外科）、永野俊雄（第一解剖学）の七氏が加わることになった。

二月二十四日組織委員会が開かれ、早速内規原案の作成にとりかかり、七月のものは、同窓会総会以前に学内支部の発表をみるよう努力することを確認した。

従来本部と学内役員の関係が、判然とせず、本部即学内の如き感があったが、これでようやく同窓会も脱皮をはかり、本部は名実とす。

先考（32号）第八面東西南北の昭和二十一年クラス会の写真説明で詫摩、河合兩名教授とあるのは詫摩、赤松兩名教授の誤りでした。謹んで訂正し、おわび致します。

訂正とお詫び

（編集部）

盛況の発会式開く

とする準備会が昨年暮に開かれ、学内支部結成に關していろいろと討議されたが、学内支部は本部の事業を推進補充する任があるとの結論を得、これが学内支部の特殊な性質であることを確認し得た。さらに本年当初、一月十九日に再び準備会を開き、前回の趣旨を説明して全員の賛同を得、各卒業年次別各教習科を考慮して委員（組織委員）を選出し得た。

準備委員は本部事業部の各委員と協力して学内支部の組織作りを担当、内規等の原案作成を行なうもので、小林龍男（理理等）、松本胖（神経精神科）、本間三郎（第一生理学）、伊藤健一郎（第一外科）等、稲垣義明（第二内科）、片山孝（泌尿器科）、青木謙（産婦人科）の如く、京葉工業地帯化の影響を受けて、最近に於ける人口増加もめざましいものがあります。従つてこの数年來の医師会員の増加も驚くばかり、すでに三人名を優に越えて居ります。最近に於て船舶市にもものはな

谷口益郎、高木良雄の諸先生が発起人となり、去る一月十七日、長安殿で発会式が行われました。当市会員五十名中三十八名の出席者を見る盛大な会となり、来賓として御招待した鈴木五郎のものは会長、小林龍男教授を中心に、それぞれ自己紹介をやり、和氣あいの内に昔の憶出等語り合いました。来年より毎回趣向を新らに

事は、我々の特に喜びとする所でこの点特に来賓の両教授よりお賞めにあすかり、面目を施しました。大学のお膝元にある關係上個人的にはそれぞれ大学との接触はありますが、会員相互の連繫等といふことは、えてして等閑りにされがちで、今日までのはな会らしい動きはなかつたので、お互い顔も知らないといふ人も多かつたのですが、これを機として相互の親睦を計り、大学の動きに対する会員の関心を強め、支部と大学との心の交流を密にしたいと存じて居ります。なお当日は支部会長として高木良雄先生、副会長として谷口益郎先生が選ばれ、今後年一回の会会を開くことに決めまし

生命保険のお礼

るのはな同窓会本部

戦後微々たるものには同意金とした資金の一助に、もて會員の皆様から長い間御支援をいただいてくみのはな同窓会を存続し得て来ました。生命保険団体契約のしたことは実にこの団体の契約件については満期者の増加と送のお蔭といつても過言ではある金手続き等の繁雑による解約者が増加によつて、団体契約の存続があらゆるまふれて来たので、すも、さらに加入者の増加をはか

和四十二年三月十一日に滞りなく、団体扱の解約と個人契約への切り替えを、完了することが出来ました。

これまでの長い間、援助頂きました各契約者の方々には勿論のこと、深い御理解と御支援を賜つた同窓会會員の皆様にも、厚く御礼を申し上げます。

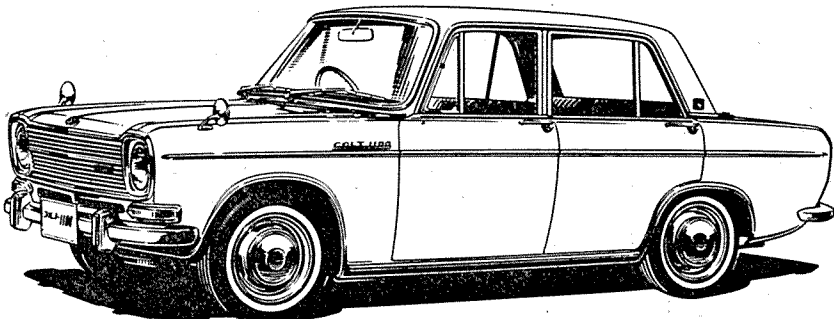
(文責木村康)



谷川久治
亭長が山形
大学の文理
学部改組に
関して実地
調査のため
山形市訪問
を機会に二
月十六日夜
同地ゐのは
な同窓会を
開催した。
写真は当日
のもので前
列右より仲
野信司（昭
七卒）岡田
長豊（昭八
卒）谷川久



本格派 4 ドアセダン



... **JILT-1000F**

実証ずみの高性能・経済性・耐久性

970cc/55PS

三菱自動車販売(株) 特約販売店
千葉三菱コルト自動車販売株式会社
(旧 千葉みずしま株式会社)
千葉市都町255 TEL千葉(27)7131(大代表)